

郷土を知り、郷土を愛する

志木市 歴史まんぼ

—— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 ——

第36回 大塚・柏町の水車

江戸中期から昭和初期にかけて、志木地域の野火止用水流域には、水車が11か所操業していました。本町の昭和新道交差点にある水車のモニュメントは、当時の面影を物語っています。

野火止用水は本町地区だけでなく、大塚や柏町地区にも支流が流れており、5か所の水車が操業していました。

- ①尾崎水車（西原ふれあい第三公園付近）：明治初期頃、尾崎家が開設し、三代にわたり操業していたが、大正10年頃に廃業。
- ②坂下水車（柏町・坂下橋付近）：大正初期に開設し、昭和8・9年頃、野火止用水の水量減少に伴い廃業。

- ③地蔵尊水車（中道地蔵尊付近）：明治末期に精米用として開設し、大正末期に廃業。
- ④神明下水車（神明神社付近）：明治初期に開設し、大正末期に廃業。
- ⑤小橋水車（柏町・旧字小橋付近）：江戸末期頃に開設し、明治20年代は主に酒造米を精米していたが、明治末期に廃業。

明治30年代頃には、北口製粉同業組合（旧志木町近隣地域の水車操業者）が統一商標として、「富士岳印」を用い小麦粉の製造・販売を手掛けていました。

このように大塚・柏町地区には、多くの水車が操業していましたが、大正末期から昭和初期にかけて水車の姿は完全に消えてしまいました。

※主な依拠図書：神山健吉「引又の水車」（『郷土志木』3号・1974年）



▲尾崎水車(画・大野進氏)



▲坂下水車(画・大野進氏)

志木市長 香川 武文

市民力を発揮し、今こそ支え合いを！

9月は厚生労働省により「健康増進普及月間」と定められています。志木市では、平均寿命が伸びている一方で、社会環境の変化に伴い、糖尿病や高血圧などの生活習慣病が増加している傾向が見られます。こうした状況の中で、本市では、ウォーキングや運動などを行うことで獲得したポイントをお買い物券に交換できる「いろは健康ポイント事業」や、働く世代の健康づくりとして「アウトドアヨガ教室」を実施するなど、さまざまな健康増進につながる取り組みを実施しております。高齢になっても健康で過ごせるよう、皆さんの積極的なご参加をお待ちしております。

さて、皆さんは9月18日の「敬老の日」とは別に、15日が「老人の日」であることはご存じでしょうか。「敬老の日」は、もともと15日でしたが、いわゆるハッピーマンデー制度により9月の第3月曜日に変更となり、これにあわせて、15日が「老人の日」として定められました。「老人の日」とは、高齢者福祉についての関心と理解を深めるための日であり、人生100年時代といわれる現在、誰もが健康で安心して、生きがいのある生活を送ることが

できる社会について一人ひとり何ができるのか…そんなことを考える日になればと思っています。

本市では、今年度、新たに15名の方が百寿を迎えられます。100年前の1923年といえば、関東大震災の年。震災後や戦後の復興を支えてこられた大先輩が、100歳という大変めでたい節目を迎えられることは喜ばしい限りであります。一方で、100歳以上の人口が増える中、高齢者の皆さんが住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができる取り組みを充実させることは、まちづくりの重大なテーマとして位置づけなくてはなりません。

その一環として、9月2日から7日まで、「認知症にやさしいまちづくりフェア」を開催します。このフェアの期間中、介護の悩みごとなどを共有する介護者サロンや認知症サポーター養成講座など、認知症への理解を深めるためのさまざまなイベントを展開していきます。中でも、6日に実施する「認知症SOS声かけ模擬訓練」は、認知症の迷い人への声かけ方法などの実践訓練として、2014年に志木市が県内ではじめて取り組みました。この訓練は、メディアにも取り上げられ、現在では多くの自治体へ波及し、取り組まれています。超高齢社会が進展する中、こうした支え合いがますます重要となってくるのです。

全国でも6番目に小さい市である志木市。小さいからこそ、市民同士のつながりにより、お互いの背を支え合っていくことができる強みがあるのだと信じています。「老人の日」「敬老の日」を前に改めて、市民の皆さん、一人ひとりの市民力をお借りしながら、みんなでつながり、安心して自分らしく暮らせるまちを目指していきたいと強く思っています。